

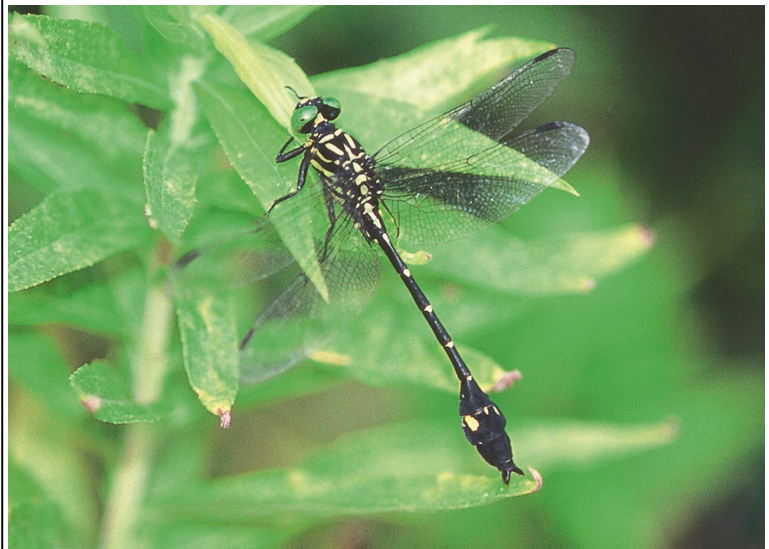
ナゴヤサナエ *Stylurus nagoyanus* (Asahina)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は55%、現存数は13であり、準絶滅危惧に相当する。

【形態】

腹部第7から9節が著しく広がった、やや大型のサナエトンボである。メガネサナエより一回り小さく、腹部第4～7節の黄色斑が環状斑となっていることで識別できる。



♂. 一宮市北方町北方, 2007年9月28日, 安藤 尚 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張および西三河の29市町村で記録されている。東三河には分布しない。

【国内の分布】

本州東北部から九州南部にかけて記録されている。

【世界の分布】

日本特産種である。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、河川の中～下流域で8～9月を中心に見られる。木曽川などの大河川以外にも川幅10～20m程度の砂地の浅い河川で成熟個体が見られることがある。成虫は、発生地からかなり移動することもあり、県下でも羽化地から離れた市町村で確認される例が散見される。幼虫は、河川下流域の砂泥底に生息する。羽化は6～8月に見られ、成虫になるまでに複数年かかると推測される。

【現在の生息状況／減少の要因】

木曽川および庄内川、愛知用水、矢作川で

羽化が確認されている。木曽川は愛知県最大の産地であるが、近年個体数が減少している。庄内川、愛知用水、矢作川は年に確認できる数が1桁を超えることはなく、非常に個体密度は低い。

成虫は羽化場所より上流の砂地の川で産卵するので、環境が一気になくなることは少ない。一方、幼虫は川底の泥質に好みがあるため、河川改修等による河床の攪乱や川底へのヘドロの堆積により生息環境が失われることがある。また緩やかな流れに生息することもあるので、農薬等の有毒物質の影響を受ける可能性も考えられる。木曽川では、羽化中の個体に水上バイクの起こした波がかぶり、羽化不全となる例が観察されている。

【保全上の留意点】

- 1) 河川の水質汚濁の防止
- 2) 幼虫の生息域となる砂泥底の確保
- 3) 幼虫の羽化場所付近での水上バイクやプレジャーボート等の使用抑制

【特記事項】

名古屋市を基産地とする種で、和名と種名が「名古屋」に因んで命名された唯一のトンボである。本種の幼虫は、トンボ類としては珍しく塩分への耐性を有しており、愛知県でも木曽川大堰より下流の汽水域で羽化を確認できる。羽化時にハクセキレイに捕食されることが多い。

(吉田雅澄)

県内分布図

